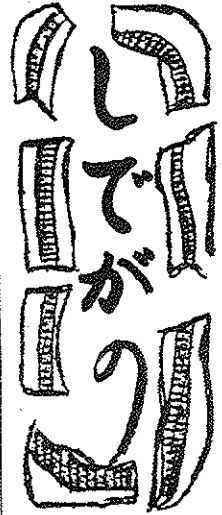


6月19日 プール開きにはしゃぐ子供たち



しでがの通信
第92号
羽津小 P・T・A
編集発行
発行所 羽津小学校

として保存して下さい

「おはよう」の一言で



「おはよう」の一言で	1
思い出いっばい(京都・奈良修学旅行)	2
学級懇談会の報告	4
こんな夏休みは?	6
こどもの心に民話を (シリーズ二)	7
学年行事紹介	8
あなたが主役	9

『毎朝、子供が家を出る折に握手をして送り出し、わが家の前を通り、集団登校していく子供を家の回りを掃除しながら見送り、朝のあいさつ「おはよう」「気をつけて行ってらっしゃい」と声をかけています。でも、ほんの二、三人が小さな声で「おはよう」と言ってくれます。中には「寝なおばさん」とか、顔をにらんでいるような子もいます。その度に「もう言うのやめようかしら」と思ったりもしました。でも今日からその考えはやめました。

六月に入って、いつものように掃除をしながら「おはよう」と言うとき「おはようございます。」と元気な声で口々に子供たちが言ってくれるのです。

耳を疑いました。うれしくて涙の

出る程でした。お天気の方は曇っていましたが、その一日は、はれぱれとした気持ちで過ごせました。

出来得れば、地域の人みんなが子供たちに、いつでも、どこでもひと声かけてあげられたらと希望します。』

今、学校で「あいさつ」運動が行われています。その成果が地域の人たちまで広がっているのです。

「あいさつ」がいつでも、どこでも自然に出来るようにしたいのです。

※六月六日付、羽津町の匿名希望の方からお寄せいただいたお手紙を無断で掲載しましたことをおわびいたします。(編集子)

日 程

(第1日) 学校出発 — 法隆寺 — 春日大社 — 三笠屋(昼) — 三月堂・二月堂 —
 59年 5/28 7:00 9:45~11:15 12:00 12:20~13:00

— 東大寺大仏殿 — 宇治平等院 — 旅館 — 新京極 — 旅館
 15:00~15:30 16:30 19:00~20:00

(第2日) 旅館出発 — 清水寺 — 三十三間堂 — 二条城 — 金閣寺 —
 5/29 7:30 7:50~8:30 8:40~9:10 9:40~11:00 11:30~12:00

— 京都東映太秦映画村 — 学 校
 12:30~14:30 17:45

思い出いっぱい

京都

奈良

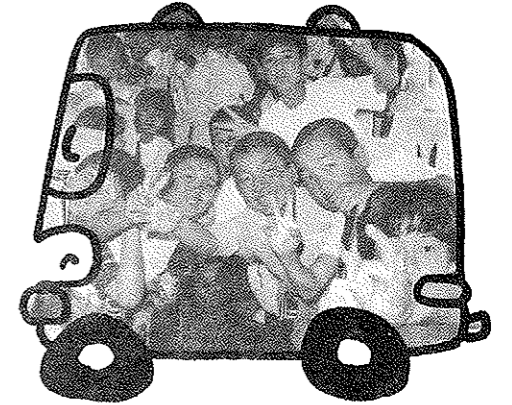
修学旅行



二条城の外人さん

六年一組 佐藤 貴嗣

修学旅行の行先は奈良・京都であつた。
 中でもよかつた所は、二条城と清水寺。二条城で印象が強いのは、外人客とおほりの大きなコイ。それに、大政奉還の相談場所である。ぼくと友達がお二条城の出がけに、外人にサインをもらった。他の子は、紙を差し出すだけでサインをもらっていた。それは、相手にとつて失礼だと思つた。
 ぼくは四人にサインをもらった。



夢のせて レッツゴー

そして、時間を外人に聞いたら、十時二十四分といつた。映画村でも聞いたら一時二十五分だつた。この二つの時間は、はつきりとおぼえている。

清水寺には、音羽の滝があつた。学園の滝・ロマンスの滝・長生きの滝の滝があり、ぼくは、長生きの滝の水を飲んだ。

旅館では、夜にまくら投げをした。ぼくは、まくらも投げたがふんもまるめて投げた。朝は、とつてもおながすいていた。バスの中でクイズに当たりバッチをもらった。タオル回しは一度もバッチゲームをやらなくてよかつた。バスの中は、とても楽しかつた。



あれも、これもいいなあ！

思い出の修学旅行

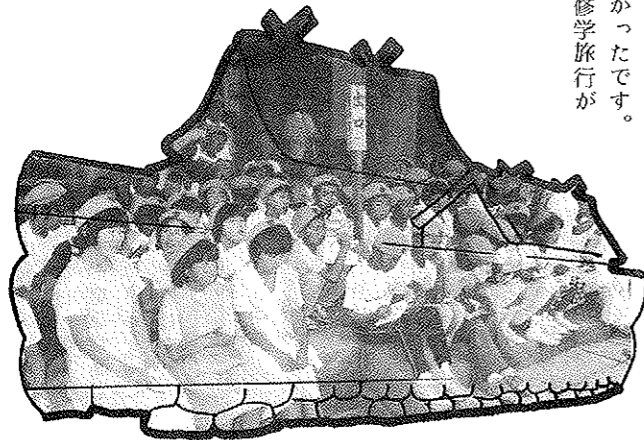
六年三組 広瀬 仁美

奈良・京都へ修学旅行へ行く日がついに来た。
 一番初めに見学したのは、法隆寺でした。古びた建て物がたくさんありました。次に見学したのは春日大社で、だいぶ歩いた気がします。お昼になり、三笠屋本店でお弁当を食べて東大寺など、いろいろ見学し、大仏様の大きさにおどろきました。次に見学したところは、宇治平等院でした。ここで一

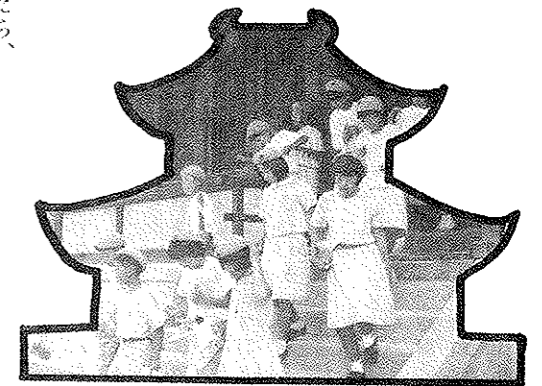
日目の見学はおわりました。しばらくバスに乗りいよいよ旅館につきました。なにがいやだといつたらやはり食事でした。7時になり新京極にかい物へ行きました。いろいろな物があつた。夜は、みんなでさわきました。
 2日目は清水寺、清水の舞台から見おろした景色は最高でした。次に三十三間堂、二条城、金閣寺と順に見学し、修学旅行最後は、東映太秦映画村でした。むかしの家がたくさんならんでいた。
 だいぶつかれたけれど、みんなといられてとても楽しかつたです。これで長いようで短い修学旅行がおわりました。



ハイ!! ポーズ



あ〜 つかれちゃった



大仏さんに圧倒されちゃった!

ともだち・おこづかい

一年生

一、おこづかいについて

○現在与えている家庭と与えない家庭と、正確な比較はできないが、これは各家庭内の事情によって変わってくる。

○男子はおこづかいのほとんどが筋消し(筋肉マン消しゴム)と呼ばれる消しゴムに使われている。が、あまり買いたくはない。問題なので、親も注意しておく必要がある。

○おこづかいで、友達にものをおごる、おごらせるのはやめさせよう。

○おこづかいで、子供が何を買っているのか親は知っておくべきである。まず親が聞いてみる。

○先生側からは、子供の気持ちとしては自分で買いたいという願望もあるし、全然お金を使えない子でも困るので、おこづかいを与えるのなら、今が丁度良い時期では……。決まった額を与えるのであれば小遣い帳をつけるのもよいというお話もありました。

二、ともだちについて

○大勢では遊ばない。一人の子と約束した場合などは、他の子と

は遊ばない傾向がある。

○外で元気よく遊ぶより、室内で遊ぶつきあいが多い。

○自分達で遊び方を考えてあそぶことができる。

○広く遊べる場所もあまりなく、小学校の校庭でも遊べるとよい。

○自分本位のつきあい方をすることが多い。

○自分のことのもともだちは、親も暖かい気持ちで見守ろう。

○悪い時には同じように注意を。以上のような結果となっています。親も子も、対話を充分にとって、各問題に対処してゆきたいものです。

子供の育成

家庭でのしつけ

二年生

多数の出席を得て、話を進める事が出来ました。先ず……

○外遊び

自転車のお陰ですい分遠くまで出かけるが、誰と、行き先、帰る時間を確認する。

学級懇談会の報告

六月八日(金) 授業参観と懇談会が開かれました。

各学年とも懇談の内容を学年代表の方にまとめていただきました。

学級委員の選出方法として、名簿だけの選挙は公平を欠くので、経験者は、候補からはずす先生からの電話は断わりにくいので、受けざるを得ない。結局毎年同一人物ばかりだ。父兄全員が適任者だ。

子供のほめ方・叱り方

三年生

子供と毎日接していますと、親のなげない叱責やほめ言葉が、大変強く子どもの心に影響を与えていることに気づきます。子供たちは、叱られ、ほめられながら生き方を覚えていくのではないかとさえ感じます。そこで、この叱る、ほめる、という問題を考え直す意味で、話し合いました。

「叱る」

兄弟げんかをしたり、物の後片付けができなかったり、勉強せずテレビばかり見ていたり、子どものこういう場面にでくわすと、つい感情的に叱る場合があります。また、あれやこれやとめどなく叱る場合もあります。大声でどなられたり、何日も前のことまで叱られたりしても、子どもにとっては、何を叱られているのかわからないことになってしまう。三年生という理くつわかっ

る年頃だと思えますので、少しずつ理論だてて説明してやるのが大切なのではないでしょうか。

「ほめ方」

自分の納得のいかないことを大げさにはめられても子どもは喜ばないようです。毎日の子どもの様子をよく見て、一生懸命努力したこと、最後までやり通したことを、機会をのがさずにはめてやるのが大切ではないかと思えます。

子は親の鏡などと言いますが、まず叱る前に親がやってみせること、また子供の心の程まで親が心を下げて叱ったり、ほめたりすることが必要ではないか。というふうに話が、落ち着きました。

四年〇組の一日

四年生

各クラスにおいて、担任の先生方からそれぞれのクラスの子供達の様子、たとえば授業中の態度、給食時間や休み時間の様子、忘れ物の頻度や忘れ物をしない様などに注意を払っているか、宿題の与え方やその考え方、組全体の雰囲気、そして先生の気のつかれた事、等々、普段知りたかった事、子供を通してはなかなか知ることの出来ない学校での子供の様

○宿題はいつさせるか
寝むくなり、体も疲れるので、なるべく早い時間にさせる。

○明日の用意等も、口や手を出さず自分一人できせよう。又、朝の登校時と同じで、母令で動かせるのでなく、自分で「これではダメだ」と思うまで待つて自主的にさせる。

○家族との対話

挨拶はもちろん、連絡事項から友達の話、テレビの話等々、出来るだけ対話する様努力する。

叱ると口応えが多くなるのは成長している証拠として子供の言い分を全部聞き、その中で悪い事を指摘する。中でも(人の物を盗む、人や物を傷つけ、弱い者いじめをする)(うそをつく)これだけは、妥協せず絶対許さないと言う気持ちで黙しましょう。

叱るばかりでなく、あたり前の事でも大いに誉めよう。

○家族の一員として、どしどし手伝いをさせよう。

○学校への要望

・夏休みの宿題は少しにして望しい。

子を話して頂きました。

その中でこんなお話もありましたので、ご紹介致します。4年生という学年は、小学校生活にも慣れ、ある程度の学力、体力、そして物事の良し悪しを判断する力が備わってくる大切な年頃であると共に、自立心が養われつつあるもの頃からだそうです。ところが4年生全体としては、自主性に欠けているという共通した意見もありました。ほんの一例ですが、けんかをしたり、いい争いになった時など、先生を呼んで仲に入ってもらいより、生徒達だけで解決させる、など、各先生方が自主性をおこせせんが為に工夫をされて

いるお話もありました。高学年になるにしたがって、親と一緒にいる時間よりも学校での時間の方が長くなってきます。子供にとって学校生活は、一日のほとんどを占めることとなります。勉強も大事ですが、友達関係を広くして楽しい学校生活を送って欲しい、という希望も出ました。その為には、先生方及び父兄の皆様が必要に応じて話し合いの機会を持つべきであるとのことでした。

子供の生活と指導

五年生

最終学年という事で、大きなテーマをあげましたので、各クラスとも多数の御出席をいただき、次の様な話し合いが、活発に行なわれました。

○修学旅行の反省

・持物の記名が徹底していない。
・小づかい(三千円)が守られていない子があつた。
・事前に新しい服装等、やめる

最上級生としての心がまえと問題行動

六年生

各クラス共 教室に入りきらない御父兄も懇談が始まる頃には、人影もチラホラ……。けれど、どのクラスも熱心に話し合いがなされ、有意義な懇談会であつたと思えます。

高学年として、学校、家庭での生活の様子を、勉強、言葉使い、お小遣いの金額及び使い方、お手伝い、遊び、性(生理、他……)、食事の仕方、起床、就寝時間……等について、話し合い、お互い、よそ様の子供さんの様子をお聞きして、驚いたり安心したりしました。社会の役に立つ、よい子を育てたいと思うのは、共通した親の願いであり、それには、まず親の生活態度を改めなければと反省させられました。

○学習面

・本をしっかりと読む。(今習っている所は十回くらい)

・漢字の練習

以上が主な内容でした。六年生になったからどうする、という事ではなく、毎日の基本的な生活習慣の積み重ねが大切であり、その中の一つでも根気よく続けていく事が必要だと思えます。そして、「はい」、「いいえ」のはっきりと言える子になる事が、今後よりよい中学生活に結びついてゆく事だと思えます。

わたしの夏休み

六年四組 福島 由紀

今までの夏休みは、自分が気に入る夏休みではありませんでした。でも今年、小学校の最後の夏休み。思い出をつくるため、最高の夏休みにしたいです。

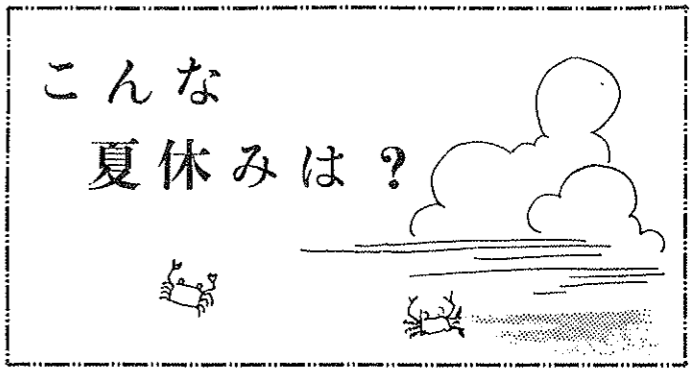
勉強もしなければならぬけれど、せつかくの長い休みのなかから、家族で遊ぶことも考えなければならぬと思います。もしかしら、それがきっかけで新しいものがみつかるといいですね。

でも、遊んでばかりで、家事はお母さんにまかせっぱなしでは、お母さんが苦労するだけです。お手伝いを進んでするというのも、大切なことだと思います。

勉強は、むずかしい計画をたてずに、かん単な計画をたてて、残った時間に、自由研究などをすれば、むりのない休みになると思います。

- 一、規則正しい生活をする。
- 二、お手伝いは進んでする。
- 三、健康に気をつける。

そして、夏休みの目標は、一、規則正しい生活をする。二、お手伝いは進んでする。三、健康に気をつける。というを守って、楽しい夏休みをすることです。



まちどうしい夏休み

六年二組 竹内 嘉子

わたしの夏休みの予定で、一番楽しいことは、九州の熊本県に行くことです。熊本城が近くにあるので見に行くことになっています。早くおじいさんや、おばあさんにあいたいなあと思っています。

それに、七月の末には校庭キャンプがあります。わたしは四年生の時も、五年生の時も校庭キャンプには参加していたので、だいた

いわれます。いちばんおもしろいのは、ごはん作りです。ジュニアリーダーの人たちとともに作った食事もなかなかおいしいものです。それに夜には、キャンプファイヤーがあります。みんなといっしょに歌を歌ったり、おどったりします。

夏休みの間に本もたくさん読もうと思えます。とくに読みたいと思うものは、社会科で習っている『源氏物語』や『枕草子』などです。このほかにもいろいろ読みたいと思えます。それに読書感想文がへたなので練習したいです。

八月には、フットのしあいがあります。そのために、夏休みとくくんをしなければいけません。がんばろうと思えます。

戸外へ飛び出そう

羽津山 片山 格志

もうすぐ待ちに待った夏休みが始まる。今年の夏休みは、アウトドア作戦で体を鍛えよう。

きみ達は、長い長い休みだが、お父さん、お母さんは忙がしいのだ。最近デイキャンプが流行して



いるのを知っているかい? 遠くへ行かなくても近くでけっとういい所がいっぱいあるのだ。例えば霞の埋立地の中にある公園でもいいのだ。このいいのは車の利用でできることだ。キャンプ道具とはいっても宿泊しないのだから、テントもシュラフ(寝袋)もいらぬ。炊事道具だけ。バットにボール、サッカーボール等等、遊び道具は忘れてはいけない。プールもあるから水着も――。

シリーズ(二) 子どもの心に民話を

教頭 池田 昭

◆民話の本舞台は家庭

わたしたちの祖先が、夜明けとともに起き出して仕事に励み、日没とともに家に戻った時代には、夜という時間はやすらぎの時であった。むろん、貧しさのために夜業を強いられる人たちもあった。しかし、それらとて昼間の仕事に比らべたら、はるかに気持ちの安らぐものであった筈である。

いろいろにチロチロ燃える火を囲んで世間話に興じながら、自ずとそこには家庭の団らんが生まれてきた。世間話の中には、よその部落や村、遠い都の話があり、あるときには語りつがれて今に伝わる昔話なども語られたことだろう。

素材な語りを耳にするうちに知らず知らず子供たちは話の世界に身を置き、親や年寄りのひざに抱かれながら肉親や老人の愛を身に受けたものだった。そうやって語られたものが今の民話である。まさに、民話の本舞台は学校や文化会館のような所ではなく、私

的なチロチロと燃えるいろり火の炉辺であった。パチパチとはぜる小枝の音、燃えさかるたき木の炎、燃えにくい木の煙、それが目に見える痛さ。そして、トツトツとして語られたであろう昔話に子供は幼い胸を痛めたり、ときめかしたに違いない。

古い時代といっても、つい先ごろまではどの家庭でも日没とともに一か所に集まり、思い思いのことを話し合ったものだ。また、そのサロンがごく自然に生まれていたわけである。そのサロンの中で子供たちは家庭というもののすばらしさを感じとり身につけて成長していったのである。

家庭での話というものは、人に伝えて感動を与えようなどと特別のねらいがあるわけではなく、それそれの思いのこを勝手に話し合っただけである。それでいて、その飾り気のない荒けずりの語り、それを聞く人たちにこよなく愛されていったのである。特別に手のこんだ語り口や技法があ



◆家庭での語りのねうち

一日三回の食事のうち、家族がそろることがどの程度に可能なのだろうか。朝は、父親は出勤時刻に合わせ、子供は学校の始業時刻に合わせて大変あわただしく過ぎてしまわうのが一般のようだ。昼

を得たからだと思われる。家庭の暖かさ、親のいつくしみを感じとらなかつた子供は、長じて心のふるさとを持つことができず、よりどころをもたない心の持ち主になりがちである。

学年行事紹介

各学年とも親子揃っての運動・趣向をこらしたゲームを楽しくすごしたようです。

一年生 おまじない 忘れちゃった

大宮西 大森 良子

「おかあさん、重いつて言うらるうナ」と、背中では嬉しそうに笑っている子供達、「しまった！おまじないとかんだから、先生に負けてしまった」と、おかあさんに寄り添って話しかけている男の子。体育館の中は、暖かい空気に包まれました。

親子の触れ合い、先生と親子の親睦、父兄同志の親睦の為の学年行事は、大変意義あるものだと思います。

学年行事の内容を考える時は、都合でやむをえず出席していただけない親子さんの事も考慮いたしました。むかで競争では、ゴールまでが、やっとの私達、いまでも太ももが

痛みます。それに比べて、子供達は元気で、「全然えらくないよ」との事。日頃の運動不足を感じました。でも親子の触れ合いを感じた楽しい一日でした。

二年生

親子揃って楽しいふれ合い

山手 大橋江利子

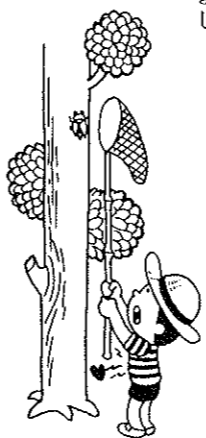
五月三十一日に、学年のトップをきって、二年生学年行事を実施致しました。毎年この学年行事は、父兄の間に関心が高く、今年もたくさんの方が、参加して下さいました。「欠席すると、子供がかわいそうだから無理して来たわ。」「こんな時でないと、照れて子供と一緒に遊べないもんね。」等の声がかかれ、親子揃って映画に、ゲームにと、楽しいふれ合いの一時を過ごしました。映画を見ての感想は、今の時代、

四年生

キャビアを食べ損ねた2少年

別名一 森井 幸子

六月二十六日の午後、梅雨空をね返すような歓声が、体育館に響く。四年生の学年行事として、天才クイズ・ゲーム等を楽しんだ。進行係の先生方のユーモアも交えて、簡単そうでも難しい問題に、敵えなくダウンするも笑いのうちで、残る子供も、お母さんも、晴れがましさと緊張で、なかに、日頃眠れるせい肉も総動員して、健闘したお母さんもいました。結局最後には、するどいカンを持った二人の少年が残りました。皆の、見守るうちにも両君相譲らず互角の勝負。最後に、黒田先生の「サケの卵はイクラで、チヨウザメの卵はキャビアである」二少年の答は、ノーと出た。キャビアを食べ損ねたところで両者引分け。ヤンヤの喝采は、いうまでもなし。残るゲームも勿論、阿鼻叫喚のうちに終わりました。いえ失礼、和気あいあいのうちにでした。



XXXXXXXXXX
XXXXXXXXXX

あなたが主役

各部の活動盛ん

うございました。

手芸教室

作る楽しさ味わった

緑丘町 岡田 有美子

先日、友人にすすめられて、箱作りに挑戦しました。もともと、物を作るのは、大好きで色々やっではいきましたが、今度のように、和紙を張りつけた箱作りは、始めてで、余り乗気ではありませんでした。けれども、習って見ると意外に面白く、あっという間に時間がたってしまった。

もうすでに、裁断してあるボール紙をセロテープで張りつけ、その上に黒の和紙で、ふちどりを付けていきました。出来上がった時は予想外に見えがして、嬉しくなっていました。友達とおしゃべりしながら作る課程も楽しいし、出来上りを見れば、又、格別の嬉しさで、作る楽しさを充分味わいました。家に帰りまして、主人と子供に「きれいな箱だね」とほめられて、又、有頂天になっています。

母親部

料理教室を開いて

部長 赤坂 早苗

第一回料理教室は本庁の牧田先生をお招きし、市民センターにおいて、中華料理をご指導していただきました。豚肉の唐揚げにんにく、ネギ、生姜のたっぷり入ったスタミナモリモリになりそうなタレで食べます。歯ざわりのよいカラゲの酢の物、コーンスープ、ゴマのたくさん入ったシナモン風味のクッキー、梅雨時のはっきりしない体に力のわいてきそうな献立でした。「これだとおかずとつまみの両方いけそう」「さっそく主人のつまみに」の声の中、校長先生、PTA会長、副会長を招いての楽しい食事でした。不安と戸惑いの教室でしたが、「ごくろう様でした」「有難う」の声にホッとしました。ただ物を作るだけの会ではなく、皆様と語り合えるつどいの場として、一層の理解と協力をお願い致します。どうも有難

五年生 ユニークなクラス対抗

羽津 山本 里美

六月十一日午後一時二十分より行なわれた行事も前日は雨で運動場の状態も悪かったのですが、それでも沢山のお母さんが参加され子供たちも元気に頑張りました。最初は、ダンボールを輪にした中に入り「ゴロゴロ」ところがる競走です。泥にまみれ懸命にこころがっていました。

次は、「スナック喰い競走」です。これは、袋に入ったおかしをひもでつるし、それを口にくわえて走るのです。この競走はお母さんも参加しました。日頃おしとやかなお母さんこの時はかりは、大きな口をあけてスナックにかぶりついでいました。

三番目は、「あめさがし」です。お盆の中にメリケン粉を一杯入れその中にあめをかくし顔をつけてさがすのです。どの子も顔を真白にしてあめをさがしているのがゆかいました。

最後は、クラス対抗リレーです。お母さんも懸命に走り子供達と一緒に汗を流した一日でした。



やっど食べれた

ご結婚おめでとう

お幸せに

六月二日

斉藤庄子先生 (旧姓 坂本)

三年二組担任



六月三日

的屋依子先生 (旧姓 近藤)

一年二組担任



安全部

交通安全教室

部長 人見直宏

六月十五日に交通安全教室を開催いたしました。朝から雨模様となり開催が危ぶまれる日でありましたが、八時を過ぎる頃から雨もやみ無事行う事ができました。内容としてしまして当日は、北警察交通課の方、安全協会の方の熱意ある指導のもと一年生、三年生は運動場内に交通標識を設け信号機のある交差点、止まれの標示器のある曲り角、踏切を利用しての正しい渡り方を勉強しました。二年生、四年生はミスターベンリー前市民センター前で正しい横断歩道の渡り方を勉強しました。五年生、六年生は正しい自転車の乗り方を勉強いたしました。子供達が当教室で勉強したことを確実に守って今後交通事故にあわぬよう祈ります。



なお、当日は会長様はじめ本部役員の方、そして安全部員の方大変ご多忙の中当教室にご協力下さいましてありがとうございます。



踏切はこうして渡るのよ

福祉保健部

親睦を深めた

親善ソフトボール大会

今年度、福祉保健部第一回行事のPTA親善ソフトボール大会が五月二十六日(土)午後一時半より男子13名、女子30名、先生14名の参加で盛大に行われました。

男子は先生チームと対抗、女子は8チームでリーグ戦で試合をしました。今年も又先生チームが三対一で勝ちました。これを機会に父兄同士又、父兄と先生方との親

睦を深め、学校と家庭との関係をより親密にしたものです。これからのPTA活動に一人でも多く参加して下さい。

救急実技講習会

七月四日、体育館に於て救急実技講習会が行われました。参加者五十数名で北消防署員の指導により人工呼吸法や骨折、ねん挫、頭のケガをした時の包帯の巻き方、タンカの作り方などを真剣に受講されました。

学年学級部

給食試食会に参加して

大宮町 梅本 光子

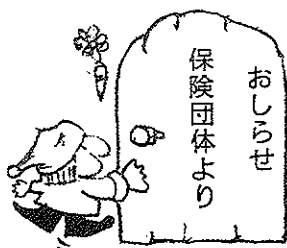
我が家では長男が一年生になり、入学して一週間余りして学校から給食の献立表をもらってきました。

日頃、食の細かい好き嫌いの多い子なので学校となると特別心配でした。そんな頃の試食会だったので、興味と期待で学校へ行きました。始めに教頭先生から給食のことについてお話があり、その後一年生各クラスの給食の様子を見せていただきました。今日の献立はちらし寿司、冷奴、かき卵汁と牛乳でした。長男はお寿司はあまり好きではないのにどうでしょう、おいしそうに食べているのでびっ

くりしてしまいました。いたたくと、お酢の加減もちょうど良く美味、豆腐もよく冷えて口あたり良く、かつおぶしやごまの混ったふりかけをかけていただくようになっており栄養も充分。子供達は毎日こんなにおいしい昼食をいただいているんだなあ、と安心しました。

環境整備部

六月九日(土)午後小雨の降る中、部員、本部役員のご協力を得て松くい虫予防剤の理込み、樹木の消毒作業が行われました。



昨年より計画されておりました運動場整備事業は、六月十九日より施工され、この度、完成の運びとなりました。

これは、日頃皆様方にお世話いただいております保険団体金を一部負担して出来上がったもので小学校としては他に類をみない程の立派な運動場に生まれ変わりました。本当にありがとうございます。